

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106456		
法人名	(株)ささき		
事業所名	グループホーム みらい (2階ユニット)		
所在地	岡山県岡山市南区妹尾883-1		
自己評価作成日	平成22年12月26日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370106456&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370106456&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年1月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・G.Hみらいの直ぐ側には、スーパーやホームセンター、郵便局、公民館等があり、生活するにはとても便利な場所なので大いに利用し、入居者様に有意義な生活を送って頂くよう努めています。今年も公民館で入居者様の作品展示をさせて頂いたり、毎日の買物で、新鮮でおいしい食事を摂る事ができます。ふれあいセンターも近所なので催し物があれば出掛け、リフレッシュされます。  
 ・また、季節行事としてのしめ縄作りは、民生委員さんの協力を得、入居者様は力発揮されます。作れない人も、見ているだけで暮れの行事に笑顔になります。  
 ・目標達成計画は職員全員で考え、毎朝一人ひとりに挨拶をして仕事に取り掛かる。また、どのような介護度の方に対しても「ありがとう」と言える場面を作る等取組むことができました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小雪でもちらつきそうな今日の朝、ご近所の御前神社へ初詣をした。私達や家族と一緒に歩く人・車椅子の人・車で行く人等、みんな揃ってお参りした。「ご苦労様。明日が恵比寿祭りです」と周辺の掃除をしている人に声を掛けて頂いた。昼食後には地域の高齢者の為の「サロン」に参加する人が連れ立って出掛けた。妹尾の街中にあるこのホームは、設立以来地域に愛され貢献するG.Hを目指し、6年を過ぎた今、当初の念願に到達しようとしている。また、「その人が大切にしている事を日々の生活の中に取り入れ、笑顔や輝きのある暮らしを」と言う理念も終始一貫して取り組み続け、今日の午後、テーブルを囲んでの作品作りでも楽しい会話と作業が見られた。目標達成計画も具体的で職員が取り組み易い内容を取り上げており、お互いの評価の工夫もみられ、効果的な取り組みが出来ている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は抽象的である為、理念の沿った具体的な小目標を設定して実践した。	昨年目標達成計画の一項目にこの「理念の共有と実践」を取り上げ、具体的に少し頑張れば達成し易い目標を個々の職員が作成。表にして、できた日は 印を付け、評価するチャンスを作る等、実に日々のケアに波及効果が大きな取り組みが展開されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者が通っているサロンに出掛けたり、近所のお店には、毎日のように出掛けている。	妹尾夏祭りには事前に6名の中学生が車椅子の使い方を学んでくれ、当日は一緒に楽しんだり、公民館での利用者の作品展示についても、昨年の職員さんのアドバイスを受けて、解説を加えた事で一層の理解を得る等、一步一步交流が前進している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館のボランティアグループの人達と勉強の機会を持つことが出来た。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練は会議での意見から、取り組み内容を新たに加える等、利用者やホームを大切に考えてもらっている。	2ヶ月に1回、民生委員・行政担当者・家族・地域の関係者等が出席して、ホームの現状報告を始め、地域交流・その他の問題点等について話し合い、毎回有意義な意見交換の状況が会議の記録から良く分かる。	会議は確実に実施されているが、参加者・場所・会議の内容等について再検討し、今まで以上の活用を期待している。また、意見交換や出された提案が、さらに有意義に生かされる方法も考えて行きたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員との協力関係は築いていないが、包括支援センター職員の協力や、市の委託による介護相談員の訪問を受けている。	運営推進会議への今年度参加は公民館職員は1回、包括支援センターは毎回となっている。研修の案内は声掛け等や、必要な時には指導や助言をお願いする等、日常的に連携を取る協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により理解を深め、より良いケアに努めている。	禁止の対象となるような具体的事例は今の所ないし、玄関の施錠もしていないが、身体拘束に関するマニュアルを中心に内部研修をしている。状況によっては委員会で検討するようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修により学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援出来るように、学ぶ機会を持つように努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たり、契約、重要事項等内容を説明し、改定等においても説明し、理解を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、日頃は電話や面会時に意見・要望等聞く機会を設けている。職員会議や運営推進会議で報告、話し合っている。	読んでいてほのぼのとした気持ちになる「みらい通信」や個別のおたより、また、日頃の家族との会話や電話等で、よくコミュニケーションを図っている。年2回開催した。「家族会」でも色々意見が出ている。	今後「家族会」をさらに充実したものに発展させたり、運営推進会議への利用者・家族の参加を促す工夫を期待している。家族がホームの生活に関われば関わる程、意見や希望も増えて来ると思う。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や管理者と代表者、職員と代表者の面談を定期的に行っている。	毎日の暮らしの中で気が付いた事はお互い綿密に話し合っているし、定期的に行っている職員会議ではよく意見交換をしている。代表者との個別の面談も実施していて、職員から例えば調理の研修等、提案も見られる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や面談などで出た意見で、可能なものについては整備等に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の内容には限りがあるため、勤務に支障のない範囲で外部研修に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症G・H協会の会員になり研修に参加したり、地域のG・Hと定期的に学習の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人と面談し、状態や気持の理解に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を行い、気持を聞き出し、連絡等も行い、安心出来る関係に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを聞き、支援内容について提案、説明を行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、ゴミ捨て等、役割作りを努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の受診に可能な家族には付き添ってもらい、ホームの行事に参加して一緒に楽しむ等してもらっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙等の支援や行きつけの美容院やお店等に出掛けるように努めている。	利用者が在宅の時から参加していた地元の高齢者の「サロン会」に出席し続けて、地域の人達とソロバンや計算ドリル・たこ焼き作り等を楽しんでいる。また、自宅が近く強い帰宅願望の人には、その都度、職員が同行している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者が一緒に過ごせるように、席を考えたり、レクリエーション等で関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人又は、家族との連絡により、様子の確認や相談に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、思いを聞き出している。意思疎通困難な利用者は家族や職員との話し合いで把握に努めている。	2Fの廊下には、それぞれの「今年の抱負」の書初「元気にあるく」等が飾ってある。一寸したつづやき「自分は籠の中の鳥」を職員が耳に止めて、出来る限り外出をと、利用者の希望や思いの発信を職員はしっかり受け止めようとしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や入居後にも得た情報を職員間で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察して記録に残したり、毎日の申し送り等で把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、家族にも連絡を取って意見を聞くようにしている。	「どこかお出掛けに連れて行ってほしい」等、本人の意向が重視され反映したプランを目指している。日頃の気付きもピックアップして「介護支援計画」に取り上げ、短期目標の設定、チェックシートによるモニタリングもできている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを記録し、実践できたかどうかのチェックを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数(希望者のみ)の外出や外食に対応したり家族との外泊もあれば、家族がホームに泊る事も時にはある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにふれあいセンターや公民館の情報を得て、行事等に参加している。地域のサロンに参加もしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を基本にしている。	利用者の半数以上はホームの協力医が主治医となり、職員が受診支援している。入居前からのかかりつけ医との連携も大切にしている、その場合受診は原則として家族の役割としている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護による健康チェックがあり、日頃の様子を伝えたり相談等できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を提供し、入院中においても医療関係者に情報等を得、退院に向けてのカンファレンスを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を確認し、主治医、看護師などとも話し合いの場を持ち、納得できる支援を行うように努めている。	昨年も看取りを経験したが、家族会でその家族に体験した思いを語ってもらい、参加した他の家族も深く考えるチャンスを得た。今後もターミナルケアについては慎重に取り組み、あらゆる環境が整った場合には支援していきたいと言う。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回は看護師の指導のもとで訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は訓練を行い、火災が起きた場合に近隣住民へ通報できるようにしている。	夜間を想定した避難訓練を実施し、消防署の指導を受けたり、運営推進会議では貴重なアドバイスを受けている。委員の提案で蛍光ワタッチリストバンドを利用者の腕につけて確認の訓練もしてみたり、近所4軒に火災発生通報が出来るシステムも設置してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り本人の意志を尊重し、介護の場面でも周囲の目を考え、傷つかないように配慮している。	トイレ誘導を始めとして、利用者への声掛け・誘い掛け等でも、その人の尊厳を大切にしようという配慮がよく感じられた。注視すべき問題については職員間でよく話し合い、ケア方針を共有しようという姿勢が「サービス担当者会議」の記録等からもよく伺われた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望や食事について希望(パン食かご飯か、時には食べたい物等)があるので、実現できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人ペースを大切にしているが、職員の勤務上、入浴は日中行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪の訪問があるので利用でき、又、行きつけの美容院の希望にも応えている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付け等出来るところと一緒にやっている。任せている点もある。	リビングにお出汁の香りがぷーんとして「今日のお昼はうどんかな？」と思っていると案の定、「台所のお母さん」がお椀にうどんをよそっていた。職員は必要な人には手助けもしながら一緒に食事をしてきた。きめ細やかな個別対応の記録も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握している。水分量の気になる人については、量を記録している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをし、能力や口腔内の状態に応じ介助等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を支援し、自分での排泄困難な人には声掛けや誘導を行っている。	排泄の自立支援は特に力を入れていて、可能な限り布パンツ使用の方向で取り組んでいる。「トイレへ」の声掛けを嫌がる人には特別な方法で仕向ける等個別に対応して、寝たきり・おしめの生活にならないよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心掛け、飲みやすい味にする等し、又、軽体操等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴中は寛いで頂くが、入浴の時間帯等については、日中を基本に行っている。	南東の位置にあるこの風呂場は明るく特に冬場は暖かくて良い。原則として午後に週2～3回入浴しているが、夕食後の人・拒否で足浴の人等、その人、その時の状況に応じて柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をしたい人はしてもらっている。就寝時間等は自由で、居室の暗さ等は本人の希望に合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師等から薬について説明を受け、薬の内容が変わった場合は症状等を観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や作業、レクリエーションを通して行っている。また、季節毎の行事を取り入れている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの毎日の希望に沿うことは難しいが、希望を聞いてボランティアや家族の協力を得て、外出支援を行っている。	季節行事としての外出の他に、希望による外食もよく楽しんでいる。街中のホームなどで買物やふれあいセンター、郵便局等、ちょっとした日常的な外出も頻繁にできる環境にある。帰宅願望の強い人にもよく対応している。	現在は職員がよく頑張っって外出支援を行っているが、今後利用者の重度化も予想できるので、今以上に家族やボランティアへの働きかけを行って現在の支援を継続させたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで預かっているが、利用者によっては外出時に財布を所持したり、小銭入れを持つこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の手紙の支援をし、電話や手紙は一人ひとりの希望に沿っての支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で清潔を保ち、壁等に季節に合った利用者の作品を飾ったり、花を生けたりして、季節感を取り入れている。	玄関を一步入ると相変わらず見事な生け花。花を見るとシャッキリするAさんのお仕事だ。職員だけでなく掃除してくれる人も居る。リビングや廊下は利用者の皆の日頃の活躍ぶりが写真や作品で満載。いつ来ても楽しい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛いでTVを見れるようにソファを置いたり、気のあった利用者同士と一緒に過ごせるように席の工夫等をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖簾をしたり、本人の馴染みの物を持ち込んで頂いている。	床に畳を敷いて「おこたの間」にしつらえた居室もある。家族の思いが強く感じられて、心温まる。他の利用者も連れ合ってお茶にすることもあるそうだ。それぞれに個性が感じられる居室になっていてとても良い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前や暖簾で本人の居室と分かるようにし、入口には出入りに気付くようにしている。		